



# 南房総のハズシ

## 授業改善のための「セルフチェックシート」R4~ をご活用ください!



管内小・中学校において実施した「令和3年度教育活動等に関するアンケート」の結果、昨年度の「セルフチェックシート」の活用率は94.2%でした。  
更に使いやすくなるようにリニューアルしましたので、今年度も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、「セルフチェックシート」をご活用ください。

### 【改訂のポイント】

- 指導者が自己評価を行うチェック項目を、児童生徒の姿から授業を振り返る文言にしました。
- 指導者が自己評価をして、「目指す児童生徒の姿に到達していなかった」という場合に、「どうすればよかったのか」を考えるために、<改善のヒント>や<手立てのヒント>を掲載しました。
- 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの4つの過程から、本時で行う部分を選択の上、☑を入れてその部分の振り返りを行うことができるようにしました。

### 【実践モデルプログラムの4つの過程】



「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。

(出典：千葉県教育委員会 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム、リーフレット)

☆裏面、授業改善のための「セルフチェックシート」R4~(活用例)も、ご覧ください。

# 活用例

## 授業改善のための「セルフチェックシート」 R4～

9月15日(木)	5年5組	指導者	南房 教子
教科	算数	単元名	整数(8/11)

4：十分できた 3：概ねできた 2：あまりできなかった 1：できなかった

授業前	<input checked="" type="checkbox"/>	指導者は、本時(本単元)を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の姿をイメージしましたか？	4・③・2・1
		<改善のヒント> 「加減の計算を通して偶数・奇数の性質に気づき、筋道立てて説明する。 ・本時(本単元)で目指す児童生徒の具体的な姿を、目標に基づいて想定する。とけは、筋道立てて、という姿に到達しなかった。 ・児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解する。 ・児童生徒に資質・能力が身に付いたか評価する手立てを準備する。	
本時で行った過程に	<input type="checkbox"/>	児童生徒が自ら問いを見いだしたり、解決していく課題を明確にしたりしていましたか？	4・3・2・1
		<手立てのヒント> ・児童生徒が自ら疑問をもち「主体的な学び」を実現することができるような資料や発問を準備する。 ・本時の学習の手助けとなる既習事項を確認する。	
取り組む	<input type="checkbox"/>	児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることができましたか？	4・3・2・1
		<手立てのヒント> ・課題を解決する見通しがもてるように、既習の内容との相違点や学習のめあてを児童生徒とともに確認する。 ・「見方・考え方」を働かせながら必要な情報を収集して調べることができるよう、ICT環境や資料等を用意する。 ・「深い学び」が実現できるよう、取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。	
授業を振り返り	<input checked="" type="checkbox"/>	児童生徒が多様な考えを理解したり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりしましたか？	4・③・2・1
		<手立てのヒント> 例) として書き出した式のパターンが少なかったため、話し合いの際、関係性に気付かせる。 ・自分の考えを根拠をもとに伝えられるよう、伝えるときに意識すべきことを指導する。まだ足りない。 ・「対話的な学び」が実現できるよう、児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の場面を設定する。グループがあった。 ・知識を相互に関連付けたり、新たな考えに気付いたりできたか確認し、個に応じた助言をする。	
まとめあげる	<input checked="" type="checkbox"/>	児童生徒が学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもちましたか？	4・③・2・1
		<手立てのヒント> 「カードが増えても同じことがいえるのか」と付けかけた。 ・学習活動や思考の過程を振り返り、「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を設定する。 ・学んだことを確実に身に付けるために、練習問題に取り組む。 ・「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすかを考える場面を設定する。 ・学習活動を次につなげて「主体的な学び」が実現できるよう、新たな疑問をもつような発問をする。	

(授業改善メモ)

「筋道立てて説明する姿に到達させるためには、①見込みの過程でたすはたす、ひくはひくにまとめ式を立てる既習を全員で確認しておく②自分で取り組むの過程で式のパターンをなるべく多く挙げるように助言したり時間を確保したりすることの2点が必要であった。また、広げ深める過程でグループごとに考えを発表したことにより、性質に気づき、より深く理解する姿が見られたことは良かった。